

令和3年度地域包括支援センター運営部会議事録

日時 令和3年11月17日(水)

午後3時30分～4時30分

会場 豊明市商工会館イベントホール

出席：太田委員、川村委員、杉原委員、堅田委員、塩尻委員、川津委員

1、あいさつ 健康福祉部長

部会長選出：太田委員

職務代理選出：塩尻委員

2、議題

(1) 令和3年度地域包括支援センター運営体制について(資料1)

事務局

令和3年度重点取組事項は以下の7点。

- ① 自立支援型ケアマネジメントの徹底と介護予防・日常生活支援総合事業の評価
- ② 地域ケア会議の強化(「多職種合同ケアカンファレンス」の定期開催)
- ③ 認知症総合支援事業の実施
- ④ 医療介護連携の推進
- ⑤ 生活支援体制整備事業
- ⑥ 地域包括支援センターの体制及び機能強化
- ⑦ 地域包括ケアシステムを支える業務体制の確保(新規)

- ・令和3年度より、前後町が南部から中部の担当に圏域変更された。
- ・配置人数について、中部地域包括支援センターは令和3年度より1人増員した。
- ・全地域包括支援センターにおいて、プラン件数は増加している。
- ・全包括支援センターの合計相談件数は、新型コロナウイルス感染症流行前の平成30年度と比較し、平成31年度は379件減少しており、相談控えの影響と考えられる。令和2年度は平成31年度と同程度の相談件数となっている。

委員長

- ・3包括の相談件数に差がある。どこからを1件としてカウントするかという基準はあるのか。この包括では1件になるが、別の包括では1件にならないということもあるか？

事務局

北部地域包括支援センターは高齢化率の高い豊明団地を担当圏域としているため、相談件数が多いという現状がある。地域包括支援センターのシステムの入力上の関係で、統一したカウントができていないという現状はある。各包括ごとに相談件数が増えているかという視点で比較いただきたい。

(2) 令和2年度地域包括支援センター実績報告及び令和3年度地域包括支援センター事業計画

北部地域包括支援センター（資料2）

- ・令和2年度は新型コロナウイルスによる外出控えで虚弱が進む高齢者の支援が特徴的であった。
- ・オレンジカフェとグリーンカフェは新型コロナウイルスの影響で中止となった時期もあったが、内容をウォーキングとして開催するなど工夫した。

中部地域包括支援センター（資料3）

- ・令和3年度より前後町が担当圏域となるため、令和2年度はその引継業務も実施した。
- ・認知症予防カフェ&太極拳の集いや地域サロン「チャンス」の開催にも取り組んだ。
- ・資料中「多職種合同ケアカンファレンス包括版発表事例件数が「12 ケース」となっているが、「16 ケース」に修正願いたい。
- ・土曜日・祝日受付は年間 84 件
- ・令和 3 年度は、新たに前後町が担当圏域に加わったため、顔の見える関係構築に注力している。

南部地域包括支援センター（資料4）

- ・コロナ禍でも支援が途切れることのないよう注力した。
- ・総合相談件数の伸びはほとんどなく、コロナの影響による相談控えを感じる。
- ・介護支援専門員からの相談件数が 180 件と増加しており、介護者との連携が取れるようになってきたと実感している。
- ・認知症総合支援事業事務局として、認知症の支援体制の充実にも注力した。新型コロナウイルスの影響により、認知症カフェが一時閉鎖に追い込まれたが、地域の新たな資源と協力関係を結び、喫茶店ハーミットと曹源寺で認知症カフェを開催できるようになった。令和3年度中には認知症サポーター1万人を達成できるのではと考えている。

委員

高齢者を取り巻く問題として、8050 問題や引きこもり、アルコールによる健康障害も増え

ており、今後も連携した対応をお願いしたい。

委員

介護支援専門員からの相談件数が包括支援センターで大きく差があるが、何が要因か。包括ごとに相談件数の差があるのに、職員数をほとんど同じで、職員1人あたりが受け持つ件数に大きな差があるのではないか。

南部地域包括支援センター

南部地域包括支援センターは問題を抱える家族が多かったという状況がある。

委員

キーパーソンがいない、子供がいない、独居という人が増えてきているが、実感としてどうであるか。

事務局

令和3年度、成年後見の市長申立件数は、増加傾向であり、関わってくれる親族がいない、認知機能低下があるというケースが増えているという実感はある。

委員長

先刻の高齢者福祉計画策定委員会において、包括支援センターがもっと分かりやすい場所にあると良いという意見が出たが、それを実現させて欲しい。また、相談しやすさという点において、リモートで相談を受けることは検討していないのか。部屋にパソコン等を用意しておき、部屋に入った高齢者が難しいパソコン操作等をする事なく、リモートで相談できる環境を検討すればコロナの影響も減らすことができるのではないか。

事務局

各包括で感染症対策に配慮して相談を受けるようにしている。毎月、包括支援センターの管理者と打合せをしているため、今後、検討していきたい。